

令和5年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立豊住小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成

学校関係者評価委員

日暮 健
藤田 久 男
野平 浩 明
小川 武 志
根 伯 夫
宮 雄 多
飯 美 紀
伊 謙 一
織 次 子
鈴 勇 公
武 藤 幸
宮 藤 幸
田 雄 世
諏 訪 秀 明

2 本年度の重点化された具体的な目標

- ・小規模特認校の充実を図る
- ・全職員で全校児童を担任している意識を高める
- ・一人一人のよさをいかし、全職員で学校運営意識を高める
- ・課題を共有し共通理解・共通行動を徹底する
- ・業務改善の推進による働き方改革を実践する

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
家庭・地域との連携	学校は、教育方針を適切に伝えている。	97.0%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	PTA総会や行事、学校日より、ホームページ、地区の回覧等、学校の様子を伝えると共に、教育方針の下、教育活動が進められていることを伝える。	A	A
	授業や行事等を参観する機会や、保護者会・個人面談等、家庭と話し合う機会を十分設けている。	97.1%の保護者が肯定的な回答をしている。	A			
学校関係者による意見等	豊住プロジェクトについて、児童一人一人が主役で、親子や卒業生・家族など様々な人との関わりがあった。一人一人が主役になれる部分が多いことで、「やりとげた」「できた」という達成感が自信につながることで、体験の積み重ねが自信になって次のステップに進めることよい。児童の意見も取り入れながらワクワクする活動が継続できるとよい。また、行事の精選も必要だが、地域と共に学ぶ、地域を学ぶ(地域を知る)ことも大事なので、誰もが主役になれる場面を作れるように、地域の力を提供しながら学校を作り上げていけるとよい。					
学習指導	学校は、基礎学力向上のための取組を行っている。	92.1%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	基礎学力の定着について児童の評価は95.9%と高いので、取組を継続する。家庭学習については、児童の評価も下がっているため、ICTを活用する等具体的な手立てを講じる。	A	B
	学校は、家庭学習が習慣化するための取組を行っている。	85.8%の保護者が肯定的な回答をしている。	B			
学校関係者による意見等	少人数のよさが生かされ、一人一人に目を向け、細かいところまで配慮しながら、児童に関わっていると感じる。教室・学校環境からも、学習の様子や積み重ねの成果がわかり、児童一人一人を大切にしていることが伝わる。先生方の多忙さが問題になっているが、笑顔でゆとりをもって、子どもたちに向き合えることを願っている。					
生徒指導	学校は、子どもがきまりや約束を守って生活できるように計画的・継続的に指導を行っている。	90.9%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	きまりや約束については、児童の評価も93.4%と高いので、継続した指導をする。いじめについては、児童の評価も97.9%と上がったため、継続して共通理解と共通行動を図っていく。生徒指導の機能を生かした授業の取組と道徳科や特別活動の充実を図る。	A	A
	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	82.4%の保護者が肯定的な回答をしている。	B			
学校関係者による意見等	学校が児童にとって安心して学習・生活できる安全な場所であることは、最も重要で、日々、保護者と共に努力していることがわかる。相談しやすい人間関係づくりをさらに充実していく必要がある。個々の実態、ニーズの把握、そして指導方針を立てるなど、保護者と共に行うことが信頼につながるものと思う。					

4 次期の重点目標と改善のための方策

- 地域とともにある学校づくりの推進
小規模特認校として4年目を迎えるため、さらに特色ある教育課程を編成していく。豊住未来プロジェクトとして全校での栽培活動・生産活動・販売活動を実施した。教科横断的な教育活動の実践を通して、さらに体験的な活動を取り入れて、児童の自主的な取組を促していく。また、学校・家庭・地域が連携して学校経営を進め、コミュニティスクールの仕組みを生かし、地域教材の開発や地域の物的・人的資源の有効活用等を継続し、教育力の向上を推進する。
- 小規模校の利点を生かした教育活動
少人数のよさを生かした学習形態や学習過程の工夫を意図的に取り入れて、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を推進する。また、発達段階に応じたキャリア教育や体験的な学習を充実し、小規模校だからできる教育課程の工夫をしていく。さらに、一人一人の特性に応じた指導・支援を行い、連続性のある多様な学びの場をつくり、組織的な支援体制の整備をしていく。
- 交流学習の推進
複式的な学習の中で、学び合える環境をつくり、自分の考えを広げたり、深めたりして、児童の主体的な学びの力を育成していく。異学年交流や縦割り活動、全校での活動、他校との交流活動を充実し、児童が自ら課題意識をもって多様な見方・考え方を働かせることができる学びの場をつくる。